

地域おこし協力隊の

先輩から後輩に伝えたい「心得集」



目次

一、地域おこし協力隊の活動あれこれ

二、よくある課題と乗り越え方

- ・地元の方との付き合い方
- ・仕事の組み立て方、進め方
- ・地元の方に主体的に活動してもらうために
- ・行政との付き合い方
- ・3年後の進路

三、協力隊の『心得』



一、地域おこし協力隊の活動あれこれ

「地域おこし協力隊」と一口に言っても、色々なパターンがある！

「地域」範囲の違い

市町村全体

連合自治会
小学校区

集落、自治会

「地域おこし」活動の違い

- ・観光振興
- ・教育
- ・六次産業化
- ・生活サポート
- ・廃校活用の支援
- ・産直市の支援
- …など"など"

「協力」する相手の違い

- ・地域住民
- ・住民組織
- ・農家
- ・事業体 (NPO など)
- ・商工会
- ・観光協会
- …など"など"

一方で、協力隊が直面しやすい課題には、地域や分野が違って共通するポイントも。次項では、それらを現役協力隊やOBの方にインタビューしてまとめました。

二、よくある課題と、乗り越え方

現役協力隊や、OBの方へのインタビューを参考にまとめました！

地域の方との付き合い方



地域のしきたりや、出べき行事がわかりません。

地域のキーパーソンから色々教えてもらいました。もちろん、最初はキーパーソンすらも見つかりませんでした。なので、まずはお世話になる人（職場の人、自治会の人）に色々聞いてみました。そして、キーパーソンは、活動をしていく中でわかっていきます。例えば、「この人は味方につけたらいいんじゃないか」ということが雰囲気に分かってくるし、周りの人からも頼られているような人がいます。私の場合は、自分が何か提案をしたら「私もついていくから」と頼もしく答えてくださったような人がいて、それがキーパーソンでした。



地域の代表者（必ずしも会長ではなく実務的な中心人物）に逐一相談しました！それと、引っ越したらまず自治会長さんに挨拶に行きましょう！



地域に頼れる人・相談できる人がいません。

まずは役場の担当職員さんに聞きました。次のステップとして地域内の色々な所に顔を出しました。町主催の、UI ターン者の会にも行きました。

そして、次は地域外にも足を伸ばしまして、県などが主催する協力隊の交流会や地域おこし関係のセミナーなどに参加。他の地域に UI ターン者の繋がりができたことはとても大きいです。地域に友達もいないという状況、なおかつ地域と関わりすぎてしまうのも危険だと感じていたので…。

そんな中で、自分と同じように県外から来ている若い人の存在は心強かった！そんな繋がりの中から「こんなことやりたいよね」という話になり、実際にイベント開催に繋がったりもしました！





地元の方との人間関係づくりで、何を意識すればいい？

地域の方と接するとき、**嘘はつかないようにしました**。例えば「また今度来て」と言われても社交辞令で「行きます」とは言わない。言ってしまうと「なんで来なかったんだ」と言われてしまったり、嘘をついたことになるので。誘われたら、日にちを指定して「この日に行きます」と言うか、忙しいからと断ったりしました。**あえて「うまいこと言わない」ようにしました**。言っていることと実際の行動が違うという風に思われないようにするため、できるだけ本心で接するようにしました。また、頼まれてもできないことはできないと言うようにしました。



「報連相」を物凄くたくさんしました。返信がなくても報告メールをほぼ毎日受け入れ先の会長にしました。例えば、今日こんなことがあってこんなことを言われたから、こうっておいた、など…。「そこまで言わなくていいよ」と言われようが、何もかも報連相をしました。

地域では、勝手なことをするのはよくないので。基本的に、その日あったことは全部言いました。困ったことや嫌なこともはっきり言わせてもらいました。**田舎では報連相は本当に大事だし、報連相ができればなんでもうまくいくのではないかというぐらい大事だと思っています。要は、コミュニケーションをとるとのことなので。距離も縮まるし、変に疑われることも無くなりすっきりします。**

普段からのコミュニケーションで距離を縮めておいてからでないと、「こんなことやりたいです」と言ったところでなかなか伝わったり相手が変わったりするものではないですよ。いざとなった時に、助けてあげたいと思ってもらえるような態度や姿勢は見せておく必要があると思います。お互い人間なので、反発ばかりしていてもいけないですから…。

ただ、協力隊の中でも私は「集落担当」だったのでこれぐらいやりましたが、「プロジェクト担当」のような人はそこまでいらないかもしれません。

地域行事にはすべて出ました。**任期中は、自分の私生活のことは後回しにして地域のことを一番に考えました**。どんな予定よりも地域の行事を優先しました。そして、仕事や行事を通じて出会う人にはドンドン話しかけていきました。若い人とは基本的に仕事の話はしませんでした。仲良くなる中で、地域おこしの話に興味のありそうな人には話しました。それ以外の人には、一切しないで普通に友達として付き合い合っていました。





農作業が好きだったので、着任の挨拶の時にも「手伝えることがあったら言ってほしい」と話しました。そうすると、作業を手伝いに来てほしいと声がかかるようになり、そして、行った先で色々話しができました。

できるだけUIターン者の人と関わるよりも、地域に入っていこうとしました。Iターンだけで固まって何かやっているような印象を地域の方から持たれたくはないので。UIターンの方が興味が近いことをやっている人、おもしろい人は多いですが、地域に基盤をつくる方が先だと考えました。



会話のテンポが都会と違うし言葉が通じないこともあるので、まずは「聞き役」に徹する。質問を投げかけて、教えてもらっていました。意見を言うよりも聞く、教えていただくというスタンスで地元の方と関わっていました。

行事や集まりなどにまめに顔を出すようにしました。慣れてくると、全部は顔を出せなくなるので選んでいました。地元の方に理解をいただきながら徐々に出席する行事を絞っていくというやり方でした。



ご年配の人への話題のふり方について、**野草や野菜など、地域で見つけたものの事を質問してみました。**なんでもないことでも、聞いてみると嬉しそうに色々説明してくれ、そこからだんだん話題が広がっていきました。

僕のメイン業務は集落の生活サポートとしての草刈りだったのですが、草刈りを通じて地域の人に認知してもらえたし人間関係ができました。後々、他の仕事で頼みごとをするときにもお願いしやすくなりました。



地域の若い人との繋がりについて、**最初は、まじめな話はほとんどしませんでした。**趣味の話など、雑談的な話ばかりでした。地域おこしの話をするのを我慢していたわけではなく、自分自身もIターンして友達がほとんどいない状況だったので、それはそれでありがたかったです。ゆるく付き合っていました。仲良くなるうちに、Facebookでの自分の発信などを見て興味を持ってくれたりしました。Facebookの力は大きかったように感じます。



地域の方にお世話になりっぱなし。
どうお礼をすればいいのでしょうか？

実家の名産品のジャムなど、小分けにできるものを
常備しておいて、少しずつお渡ししました！



実家に帰った時にはお土産たくさん買って、なる
べく渡したました！ご年配の方の好きそうな、和
菓子やつくだ煮にしていました。



「嫁に來い」としつこく言われます。

「うちの息子と…」という特定の人を指定してという意味ではなく、
「誰かの嫁になって地域にずっと住んでくれたらいいのに」という
趣旨でかなりの頻度で言われていました。ずっと住んでほしいと
いう手段として「嫁」という選択肢だけしか提案されず、仕事の
紹介など他のことを言われなかったので、自分の価値を否定されて
いるような気分になりました。



対応としては「そういうのはご縁なんでね～いい人いたらお願いし
ます～」と、笑顔で適当に聞き流していました。あまりにも何回も
しつこい場合は、真顔で受け流す。しんどかった一方で、「嫁に來
い」というのは地域の人からすれば「ずっといてほしい」という願
望の表れなので、ありがたいことだとは思いました。



関わる地元の人が多すぎて覚えきれません。

ノートをつかって似顔絵や特徴などをメモしていきました。例えば、
どこに住んでいるか、どんな芸能人に似ているか、なども書きました。



地域の方と出会ったときに近くにいた別の方（地域の方）から、
特徴や情報をきいておくようにしました。



地域の仕事は、地元の人の方が良くできます。

当然と言えば当然ですよ。できるできないを考えず「とにかく一緒にやろう」と割り切りました。最初の頃、協力隊は自分が目立ればいいものかと思っていたのですが、半年ぐらい地域と関わっていく中で、それではいけないと気づいてきました。もっと、地元の人を引き立てる必要があると感じました。なので**地元の人の方が仕事ができるぐらいの方がいいんじゃないでしょうか。**



はじめは、力にならないことを割り切って「参加することに意義がある（地元の人に顔を売るために参加する）」と思いました。着任の挨拶も、「**今まで都会にいたのでわからないことばかりです。教えてください**」と言ったり、そういったスタンスで地域の方と関わりました！

それでも行く！早めに集合！挨拶をしっかり！軍手など作業できる服装！



同世代の友達ができず、さびしいです。



まず、役場の担当の職員さんからの紹介で「青年部」に顔を出しました。役場青年部、商工会青年部、自治会青年部とあったので、参加しました。町内外問わず、遠慮せずにどんどん顔を出していくようにしました。最初は地域内だけで何とかしようと思いましたが、そもそも同世代の方が少なく厳しかったです。なので、**地域外で地域おこし系のセミナーや交流会などに出て、地域外に仲間をつくりました。**最初から町内に限定せず町外に繋がりを求めるのもいいのでは？

地域の人と一緒に、スポーツサークルをつくりました！そこで若い友達ができたりしたし、興味のある人には地域おこしの話などもできました。



仕事の組み立て方・見つけ方・進め方



着任しましたが、何をしたいかわかりません！

私は産直市配属でしたが、一通り挨拶回りがすんだら、自分にできることは何かと考え、まずはブログを立ち上げました。どういう人がどういう想いで作物をつくっているかなど、を写真付きで更新していました。他にも、地域に出て行って色々歩いたりしました。また、地域外にも出て行って勉強したいという想いがあり、産直関係のセミナーなど自分でどんどん見つけて役場の担当者に相談し参加しました。その後、売り上げ管理、集荷業務、営業、popづくり、レイアウト変更、役員会資料づくりと広がっていきましたが、**どれも誰かに言われてやったわけではなく自分で必要そうな仕事を見つけていきました。**



地域の人と話をしていたり色々な会議に参加する中で、何が求められていて自分はどんな立ち位置で行動したらいいかということを考えました。当初、募集要項をみたり面接の際に聞いて想定していたような、自由に企画実行する仕事ではなく、住民のサポート・ムードづくり・調整役の仕事をするべきだとわかりました。なので、自分はこうしたいという考えよりも住民の意見を大切にするようにしました。それらの立ち位置は、1~2か月ぐらいでわかりました。

一方で、地域の行事などの手伝いをしたり神楽も体験したりしながら地域に慣れて行って地域のことを勉強しました。

もっと細かく、日々の業務のことでいうと、最初何していいかわからないのは当然なので**「何をお手伝いしましょうか」と聞いていわれたことをやるというスタンスを数か月続けました。**自分から提案できるようになるのは数か月後。地域に慣れたりニーズを知るため、最初の半年は助走期間ですね。

初めての受け入れだったので地域も困惑状態だと考え、徐々に慌てずゆっくり活動していきました。まずは、受け入れ先の交流センターが協力隊を紹介するチラシを作ってくれ、アンケートも同時にとりました。アンケート（100世帯回収）で分かったニーズとして、大多数は草刈りをしてほしいというものでした。まずは、そのニーズを解消しようということで草刈りを中心に活動していきました。





最初の段階で、やる仕事は「一見」決まっているように見えたが、地域側も地域おこし協力隊の導入が初めてのことで、どう使ったらいいかがわかっていなかったです。また、2つの担当地区を行き来する中でどっちつかずの宙ぶらりんの状況にもなっていました。もともと用意されていた仕事は、大した仕事量ではなかったのに、こちらから提案して仕事（地域の加工所をつくるという動きを軌道に乗せることや、高齢化が進んでいる中で定住者を受け入れる事業をするために農水省の補助事業を使う）をやらせてもらいました。

それをした理由としては、地元に必要なだと感じたから、自分が興味があったから、ということに加えて任期後の自分の仕事に繋がればいいという想いもありました。生産を地元の人が担い、販売の部分で自分の役割を見出すという計画でした）しかし、やっていく中で自分が表に出すぎるスタンスではうまくいかないと感じ、裏方・サポート役に徹するようになりました。

基本的に配属先の施設に常駐するのが自分一人だったうえ、指示をくれる人もいませんでした。皆さん（振興会の方）が動いているのを見て、「あれをやるんだな」と察知して動きました。そして、何をしたらいいですか？と逐一聞きました。誰に聞くかという、振興会の中でも会長さんなど中心となり動いているような人です。ただ、そういう人も常に職場にいるわけではないので、来られた時に色々と聞いていました。



あえて1年間新しいことはせずに（ワークショップなどちょっとしたことはやったが）様子を伺いました。もともと、地域の皆さんの取り組みとしては頑張っておられて、それに対する誇りもお持ちでした。そこに、よそから来た人が新しいことをするということに対して、会話の節々に抵抗感のようなものを感じました。でも、1年間かけて、そんな頑張っている人たちが困っている部分はなんだろうということを探りました。最初の1年間は成果があまり出ないということもあったのですが、割り切っていたので焦りはあまりなかったです。

当時の働き方は、午前はコミュニティセンターで事務。午後は地域に出たり市役所で協議、たまに他地域に行って勉強というスタイルでした。活動の方向性が見えてきたのが2年目。少しずつ取り組んでいた「地域出身の若者を組織化して地域づくりに参画させる」ということが評価され始めたことが大きく、それをメインにしていこうと考えました。

配属先が役場だったので、まずは担当職員さんに聞きました。担当課の補助業務をしていたり、地域を知れる仕事を紹介してもらいました。



仕事上と休日で、それぞれ地域の方と関わりを持つ工夫は？



仕事について。願って広報誌の配布の仕事に同行させていただきました。他にも、社協のミニデイサービスの手伝いなど、**地域の方と関われそうな場にはどんどん自分から手伝いに行きました。まずはどんな人がいるかを知り、そこからニーズも聞きました。**

1000人の町民と会うという企画をつくって起案したら採用してもらえました。



産直市に配属ですが、仕事の中で集荷にまわることを自分から提案し、収穫などの手伝いもしました。知らないことだらけなので「覚えよう」と食らいついていきました。

休日に、地域の行事を手伝うと地域の方から「休日なのに来てくれたね」と評価してもらえました。休日にこそチャンスがあると思います。



休日の行事や夜の会議については、敢えて仕事ではなくボランティアで参加するようにしていました。地域の人と同じスタンスでやっていたとうとしました。**地域の方がボランティアでしているなら自分も仕事としてではなくボランティアで。**そうすることで「どうせ仕事として来ているんでしょ？」と思われないようにします。そう聞かれても「ボランティアですよ。皆さんと一緒にですよ」と言えます。



土地勘がなくて…

ゼンリンの地図を見ながら車で周りました。他にも、仕事で出会う方から地区の名称など聞いたり、職場の職員さんや先輩インターン者からもいろいろ教えてもらったりしました。





地域外への視察が業務として認められません！

私も、最初は難色を示されました。しかし、いかに自分の業務に必要かということを担当職員に説明しました。地域外の交流の場合は、出張旅費が発生するので、その予算内なら基本的に参加可能でした。次年度からは、出張旅費の予算について確認もしてもらえました。基本的に、行く目的やどうやって仕事に活かすかを作文し、帰った後の報告をしっかりとします。



割り切ってプライベートで行きました。そして、講師として呼ばれるぐらいの実績を出すように頑張りました。自分からは行けなくても要請が来れば行けるので、依頼文が届くぐらいを目指し、実際にそうになりました。

外部の人との連携など、業務にNGが多いです。



私の場合は地域の代表者のさじ加減で決まっていたと思います。地域を知らない外部の人との連携に拒否反応が強かったです。代表者に地域へのメリットを提示するなどしました。半分よそ者の地域出身者と一緒に活動もしました。また、地域おこしの業界で全国的にも名の知れた有識者の先生方を味方につけるということも大きかったです。先生方の意見はかなり聞いてもらえたので、言いたいことを代わりに言ってもらいました。先生方は地域との関わりはもともとはなかったけど、色々な方法で呼んだり、呼べるよう代表者にアプローチ（資料の共有など）しました。

私は、だいたい人から誘ってもらうパターンでした。誘われた際に業務としてがいいかプライベートとしてがいいかを事前に聞いて、どちらにしろ役場に報告します。業務なら、声のかかった人から町長あてに文章を書いてもらいますが、業務として認められなければ休みをとって個人で受けます。





もう嫌だ！！

地域にいるのがつらくてつらくて仕方がない！！

友達もできないし仕事もうまくいかない！！

私も、着任1年目に色々なことがありました。本当につらかったです。そのときは、**地域内にとどまらず**町外の興味のあるイベントに積極的に出向いたり、町外の友達のところ遊びに行ったりしていましたよ。また、地域内でも自分の**今までのフィールドとは違う新しいことに挑戦**したりして気分転換していましたよ。3年の任期を終え、地域に幸せに定住した今思うと、そこを乗り越えられて本当に良かったです！



大学・教育機関との連携がNGと地域の代表者から言われます。



まず、その代表者の母校と連携するように提案してみましょう！



提案がなかなか通らず、思うように活動できません…

提案を通したい人に、企画段階から混ざってもらいましょう！



私も、提案がなかなか通らず苦勞しました。そんな中でも、**諦めず何個も作って提案**し続けた結果、いくつか採用してもらえました。そして、どうしてもやりたい企画が通らなかった場合は、**プライベートの時間で実行**しました。

地域の方に主体的に活動してもらうために



地域の方が、地域おこし協力隊のことを知りません。便利屋さんと思っている人もいます。

知らなかったからこそ自分で作っていける状態だと前向きに受け止めました。地域の人には、「知らなくて大丈夫です、何でも言って下さい」と何でも意見を言ってもらい、そのうえで職員さんと相談し、業務としてやっていいことかを話し合っていました。



確かに便利屋さんと思われていたので、計画表をつくって業務の線引きをしました。その上で、やりづらい仕事があった場合には「それは、あの人の方がいいんじゃないですか？」という風にやんわり伝えました。計画表の線引きは、配属先の役員さんとに相談しつつ、活動しながら決めていきました。

地方紙に取り上げられるようなイベントを仕掛けました。僕のいる地域では、ほとんどの人が地方紙を購読していたので、地方に載れば挨拶代わりに地域のみならず県全体に知ってもらうことができます。



地域の中でも、地域おこし協力隊に関する認識には違いがありましたが、いちいち気にしませんでした。変に意識するよりも、地域に入っていくこと自体が嬉しく、どんな状況でも楽しんでいました。

多くの人から便利屋と思われていたので、何度も直接伝えました。会ったときや、自治会などの会議でも何度も言いました。「便利屋ではありません」「(草刈りなど生活サポートの業務は)対象世帯が決められています」としっかり伝えました。3年間でやっとわかってもらえました。



便利屋と思われてはいませんでした。70～80代の方々には地域おこし協力隊のことを理解してもらえませんでした。割り切って70～80代ぐらいの人には、自分が協力隊という感覚では見てもらわなくてもいいと思っていました。孫みたいに見てもらった方がいいと思って、おおいに甘えました。

個人の存在を知ってもらえても、仕事内容を知らない人は多いので、自分から任務・業務内容もはっきりと伝えました。





3年間という自分の任期後のことも考えると、地域の方に主体的に活動してもらえようようにしたいのですが、方法がわかりません。

私もそう思っていましたので、自分が主体になる形は絶対に避けたいと思いました。なので、地域の方に音頭を取ってもらってそれをサポートするというスタンスで活動しました。プロジェクトのアイデアも地元の方から引き出します。それは、普段の何気ない会話の中で聞くことができます。また、意識したこととしては自分しか知らないという状況をつくらないようにしました。例えば、わかりやすいようにファイリングするなど記録に残しました。そして、日々の報連相をしっかりとしました。



また、この人に参画してもらえたらうまく回りそうだ、という人がいたら、断られても、何回も何回も頼みました。電話も何度も資料を持って行ったりしました。誠意をもって何度も説明し、最終的には了承してもらえました。



地元の人に対して、自分から「こうすべきです」など断言することを避けました。そして、自分がいなくなった後に事業の主体となりそうな人が、事業についてどう思っているかを引き出せるような質問をするよう心掛けました。例えば、「お金がないからできないんじゃないかと、本当に大切なことってなんでしたっけ？」というようなことも。極力、自分の口から言うのではなく、主体となりそうな人の口から言ってもらうようファシリテーションをしました。そうすることで、「あなたがいないとできない」という空気をつくらないようにしていました。

草刈りなどの生活サポートがメイン業務でしたので、自分たちがいなくなっても地域が困らないような対象世帯の設定（年齢制限など）をしました。



自分だけで抱え込まず仕事を振り分け、自分だけに頼られないようにしました。

最初から自分がいなくても回る仕組みづくりを視野に入れて活動していました。もともと、国際協力をやっていたのですが、それもどのタイミングで引くか・自立させるかということが大事でした。自分がいないと成り立たないというのは嫌だったので、（公言はしなかったが）はなから定住はしなかつもりでいたし、自分が主体にならないように心がけました。





自分は黒子に徹するというスタンスでいきました。目立ちすぎても、自分が1人でやっているように見られてしまうので、地元がメインで動いているようにしていました。地元の人がメインで、自分は手伝っているというスタンスの方が地元の人から見てもわかりやすいし、主体的な動きにも繋がります。ただ、**あまりにも目立たなさすぎると「何やってるの？」ということになるので、どちらを重視するかはその人ごとの向き不向きも考えて決める**といいのではないのでしょうか。自分の場合は、裏方の方が得意ということもあったのでそういったスタンスでした。

地元の人と**合意形成をしっかりとすることが**大切です。下手すると、あいつら勝手に何やってるんだよとも言われかねないので。ただし、交付金関係の事業だと審査の締め切りなどの関係もあって事前にできることに限度があるので、計画を実行しながらケアが必要。(アンケート・ワークショップなどを事業の中で行い、出てきた意見を持ち出して説明、など)。



自分が活動のメインになることで、仮に3年後いなくなったら続かないのも困るが、自分もその地域に定住を考えている身なので、自分がメインにならないと自分の仕事にならない、そんな矛盾した気持ちもあります。協力隊の仕事として地域のためを考えてやる一方、自分の任期後の仕事づくりも必要…。複雑ですが、両方必要ですね。



地域おこしにやる気のない人とどう関わればいいでしょう？

今は地域おこしに対してやる気がなくても、やる気を持つようになる可能性があります。だから、**最初から線引きしないで活動**します。やる気を引き出すには「その人にしかできないこと」を大切にします。誰でもいいからやってくれ、ではやる気をなくすと思います。



やる気よりもその中身が大事。やる気がある人の活動が、結果として地域資源を浪費(人を巻き込みすぎてその人の時間を浪費させてしまう)することになっている場合もあります。そのため、本当はやりたいことがあってもできなくなっている人がいるパターンも。やる気がある人は声大きいので意見が通りやすいですが、他の人が「そうじゃないのにな」とか「違うことがやりたい」と思っているても声が届かずにやる気をなくしてしまうということもあります。協力隊が大事にするべきなのは、やる気をなくして無力感を感じてしまっている人かもしれないですね。やる気のない人の普段の何気ない会話の「何気ない一言、不満」の中に活動のヒントが隠れていたりします。

私は、やる気のない人ではなくやる気のある人と組むようにしています。



行政との付き合い方について



行政の方とうまく付き合うため意識しておくことは？

まず、自分から市役所に積極的に出向きました。そして、一緒に遊びに行ったり野球を見に行ったり飲みに行ったりしてプライベートで仲良くなり、それから仕事の話をするようにしました。また、自分の主催した泊りがけの地域づくり座談会に呼んだりもして、そのときにがっつり地域の話などができて仲が深まりました。日頃からの人間関係が大事です！



自分の雇い主は行政であり、行政からの特命をうけて地域とのつなぎ役をやっているという認識でいました。地域の言い分、行政の言い分それぞれ違うけど、お互い良いところも悪いところもあるのでそれを「どう繋ぐか」ということを考えました。どちらか一方が悪くて一方が良いというわけではないんですよ。

行政に動いてもらいたいときには「作戦を立てる」ことをします。対立的に接するのではなくて、戦略的に接します。右を向いてほしいときに「右を向け」といっても無理なので、周到に作戦を立ててから、なんとなくそう動いてもらえるように仕向けていきます。うまくいくことの方が少ないですが。喧嘩腰にはならないようにはしています。



過度に期待せず（割り切って）、良好な関係を築くことを心がけます。すると、いい情報があれば教えてもらえたりもするようになるし、いいことも多いです。

行政には「期待しない（割り切る）」。自分のことは自分でしっかりやり、それを邪魔されなければオッケーという気持ちでやります。期待して改善を求めても、そんなにすぐ変わるものではないともいます。また、制度などもこちらから提案・お願いをするなど、自分から動くことも心がけるようにしています。



「自分の中の担当者」を見つけること。そして、日頃からの人間関係を大事にしました！

極力勝手なことをしないようにしたし、変わったことをするときには必ず報連相。仕事が終わってから頻繁に役場に行って相談したりもしていました！



任期後の進路づくりについて



3年の任期後の進路のことを、どう考えましたか？

研究者を目指しており、定住しないことは決めていました。進路づくりのためにも、まず内側からの評価も大事だけど外側からの評価も高める必要があったため（それが無いとお呼びがかかることもないから）2年目以降は、自分から情報を大学等に発信したりしました。発信のやり方としては、色々な所で開催されている地域づくりのシンポジウムなどに休日に出向いて、先生方と仲良くなります。そうやっていく中でどこかから声がかかるようにと。それが意味就職活動だった。結果としていくつかの研究機関や団体から声がかかりました。



当初から地域への定住を考えていたので、提案・実行した事業も将来自分の仕事に繋がる方向で考えていました。地域がやりたいことと自分のやりたいことが両立できるようにするのが理想でした。ただ、やっていく中で気づいたが地域組織と一緒にやっていくというやり方では動きが遅くなってしまうので、何らかの別組織を立ち上げ独立した動きをした方がいいという考えに至りました。しかし、地域のニーズや資金的な面で難しいかもしれませぬ。任期後の進路づくりに関しては、ある程度エゴイスティックに動かないといけない部分もある。ただ、そればかりだと周りの理解も賛同も得られないので、ほどほどに。

田舎には、いわゆる「普通の人」ができる仕事がないようにおもいます。なので、任期終了後に何かの業界でプロになれるような資格づくり、人脈づくりが必要です。漠然と地域のために何かしたいということではなく、自分のやりたいことを明確にする必要があります。「自分はこれができるんだ」というものを持っている方がお金を稼ぎやすくはなると思います。自分の場合は2年目の春ぐらい役場のキャリアカウンセラーの人との出会いが契機でその資格を取りました。2年目の春が分岐点であり勝負所。1年目はそこまで進路のことは考えていなかったです。



私の場合は、任期後の進路について意識し始めたのは3年目の11月ぐらいでした。任期中は、協力隊の仕事に集中しようというスタンスです。やりたい仕事があったので、色々と仕事の案内を地域の方などからもらったりもしましたが、すべて断っていました。特に不安はなかったです。(仕事をいくつか紹介してもらったりもしていたので安心感があった)



だけど…これから協力隊になる人にお勧めしたいのは、着任前から進路のことはできる限り考えておくということです。やりたいことが決まっている人は、希望にあった活動のできる協力隊を選んだり、任期中にそういった活動をして実務経験を積むことができますので。何も考えずに来るよりは、ある程度「この分野がいい」というこだわりはあった方がいいです。ただ、そのこだわりが強すぎて地域ずれが生じるのもよくないので、臨機応変に。ただ、あまりにもノープランはよくないと思います。



私は、来た時から3年後も農業をベースに定住したいなという思いはあり、それが確信になったのは初年度に町のやった協力隊向けの研修会が契機でした。そこで細かい数字も含めた経営計画を立てることができました。また、初年度から5反ほど田畑を作ってみれたのも良かったです。農業での独立準備を協力隊の仕事とどう並行したかということに関してですが、本格的に始動したのは2年目以降です。協力隊が週4日勤務なので残りの3日で農業をしました。3年目は、前年に残しておいた有休も農繁期に消費していました。他の協力隊の仲間に理解してもらい、仕事の面で融通を聞かせてもらったりどうしても忙しいときは田んぼをてつだってもらったりもした。結果として、任期後は専業農家として独立予定です。

任期後は、行政と地域をつなぐ仕事を行政の委託を受けるような形でやっていきたいと考えています。進路については2年目の後半ぐらいから意識して動き始めました。例えば、自分のいた都会でのネットワークを活かせる方法を考えるために、市役所の動きに目を向けました。そうすると、首都圏への情報発信や定住対策という動きがあるのでそこに乗ろうとしました。誘われていなくても、自分から首をつっこんでいきました。最初の1年は与えられた任務をやるのですが、2年目以降は自分からこういうことにも関わらせてくださいと、頼まれてもいないけど出ていきました。残りの任期が1年あるので、行政からの受託を受けられるような受け皿づくりを進めていきます。



三、協力隊の『心得』

先輩協力隊が、これからの協力隊や活動初期の方に伝えたいこと。

1 「のんびり」「しっかり」

田舎のリズムはせかせかしていないので、そのリズム感のようなものは楽しむ。一方で、のんびりしすぎると3年あっという間に過ぎる。活動の軸や任期後のことはしっかりと考え取り組む。

2 進路のことは、早めに考えよう。

3年目になって慌てないように、できるだけ早めに。進路づくりには色々な方法があるので、先輩協力隊の経験談を参考に自分に合ったやり方で。

3 地域のペースや成り立ちを尊重する。

色々な選択を経て今の地域があるので、地域の人考えを全否定せず尊重したり、どうしてそういう考えに至ったのかということ尊重したうえで活動する事が大切。地元を受け入れてもらいながら、地元の方から学ばせていただきながら活動していく。そのために、あまりぐいぐい行きすぎずに常識をわきまえることも必要。

4 「志」と「自分らしさ」

何も考えずに来るのではなく、自分の志をしっかり持って。地域にとけこめるように自分から働きかける。そして、自分らしさを出す。

★ 5 自分の立ち位置を見極める。

職場や、地域の中で自分が求められているのはどういったことかを見極め行動する。ここがずれていると、関わる人との溝が開いていき、つらい状況に追い込まれていく。また、地域内の上下関係や人間関係にも目を向けて自分の立ち位置を考えることも必要。

★ 6 神経質には、なりすぎないように。

ちょっとした人の言葉を気にしたり反応しすぎなくてもいい。一つ一つ真に受けていたらやっていけないので、おおらかに構える。また、置かれている状況（着任前に聞いた話とギャップがある場合など）、関わる人（地域の方、行政の方など）に対しても期待しすぎず、ある程度割る。

★ 7 自分だけで仕事を抱え込まない。

報連相はしっかり。任期後のことも考え、自分だけに頼られないようにも。

★ 8 相談できる人を見つける。

仕事面や地域のことなど、わからないことも多いので相談できるように。

★ 9 「対立的」にならないようにする。

人と対立的に接するのではなく、戦略を考えたり日頃からの人間関係を大事にするなど、良好な関係を保ちつつ物事を進められるよう心掛ける。

★ 10 楽しくやるように心がける！

課題別 index

着任時に良くある課題

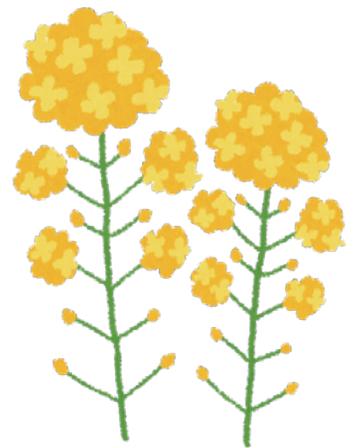
- ・聞いてた話と違います!・・・9～10頁
- ・何からやったらいいかわかりません!・・・9～10頁
- ・地域のしきたりがわからず、怒られました!・・・4頁

着任後数か月で良くある課題

- ・とにかく色々辛いです!・・・13頁
- ・便利屋だと思われているみたいです!・・・14頁
- ・ヨメに來いとしつこく言われます!・・・7頁
- ・地域で相談できる人がいません!・・・7頁
- ・同世代の友だちができません!・・・8頁

着任後1～2年で良くある課題

- ・地域外の出張が認められません!・・・12頁
- ・地域外との連携がNGです!・・・12～13頁
- ・行政の担当者が無関心です!・・・17頁
- ・地域の人への反応が薄いです!・・・16頁
- ・提案が通りません!・・・13頁
- ・縦割り行政の中で身動きがとれません!・・・17頁



任期終了が近づいてきたころによくある課題

- ・任期後の仕事の見通しがたちません!・・・18～19頁
- ・自分の任期が終わったら、活動が続かないような気がします!・・・15～16頁

地域おこし協力隊の先輩から後輩に伝えたい「心得集」

【企画・発行】 島根県中山間地域研究センター

【取材協力】 岸本佳美（飯南町地域おこし協力隊OB）、豊島睦子（川本町地域おこし協力隊OB）、谷口哲一（神石高原町地域おこし協力隊OB）、野口拓郎（三次市地域おこし協力隊OB）、小田島正博（美郷町地域おこし協力隊OB）、土方雄太（美郷町地域おこし協力隊OB）、浜崎浩（雲南市地域おこし協力隊）、竹村佑子（飯南町地域おこし協力隊）

【取材・編集】 清水隆矢（NPO法人ふるさとつなぎ）